観光の力で 東北に「光」を

支援の集いで気勢を上げる観光関係者ら＝4月21日、憲政記念館

日本観光振興協会主催「東北復興支援の集い」（1面参照）

復興に熱い思い 全力挙げて支援

仙台市で総会を開催

日本観光振興協会会長・西田厚聰氏

1日も早い復興達成に向け、観光業界は一丸となって全力で支援する。当協会は6月の通常総会を急きょ仙台市で開催することとし、全国の会員に1人でも多くの参加を呼びかける。

東北には四季折々の美しい自然、そして歴史ある素晴らしい文化がある。再び多くの観光客に楽しんでもらえるよう、全力を尽くして支援していく。

震災により宿泊キャンセルや新規予約の減少、外国人観光客の激減など観光への深刻な影響が生じており、わが国はかつてない困難な状況にある。自粛ムードから一刻も早く脱却し、難局を乗り越えなければならないが、観光が果たす役割は極めて大きいものがある。

集いを東北地方の復興、日本の観光復活、そして日本経済の新たなスタートと位置づけたい。

宣　言

私たち観光関連業界は、東日本大震災で被災されました方々に対し、心からお見舞いを申し上げますとともに、次の通り宣言します。

1、東北地域をはじめ、被災された地域の1日も早い復興を願い、被害を受けたこれら地域の観光復活のため、一丸となって支援をしていく。

2、直接の被害がなかった地域においても大きな影響が出ていることについて、風評被害や自粛ムードを払拭し、全力を挙げてこの困難を乗り越えていく。

3、被災地の復興とわが国経済の立ち直りのために、観光が果たす役割は大きく、全国の観光活性化のため、観光関連業界としてスクラムを組んで強力に取り組んでいく。

団体、自治体トップらのメッセージ（順不同）

今こそ観光の出番

観光庁長官・溝畑宏氏

経済を萎縮させずに被災地を応援するという意味で、観光は重要な役割を担う。今まで以上に営業、広報に力を入れ、皆さんとともに（復興へ向け）戦っていきたい。東北を、日本を元気にする、今こそ観光の出番だ。

官民挙げて大型キャンペーンなどを積極的にやっていく。また、ゴールデンウイークは1家族1旅行運動を徹底的にアピールしたい。100年後、この集いが歴史を変えたといわれるよう、一緒にがんばろう。

津波対策法を提案

衆院議員・二階俊博氏

東日本大震災は津波の被害が特に大きかった。津波対策は法律で対応しないと進まない。このため「津波対策基本法案」を提案している。「津波の日」実現にも努める。

地方にとってはローカル鉄道の問題が大きい。ここが元気にならないと駄目だ。「ローカル線に乗りに行こう」というキャンペーンをやろうではないか。どんな小さなことでもいいから、できることから始める。真から東北の人たちが立ち上がれるようがんばろう。

4月末に新幹線全通

日本経団連・大塚陸毅氏

我々はいつまでも呆然自失としているわけにはいかない。新しい力強い1歩を踏み出すべきだ。震災で多くのものを失ったが、これからは我々が努力をして、失ったものを、いや、それ以上のものを取り戻すことに全身全霊をもって取り組む。

4月末に東北新幹線の新青森～東京間が全通する予定だ。全通が東北の方々に大きな力、元気を与えると思う。皆が力を合わせれば乗り越えられる。今日はその第1歩となる。

復興へ青森DC開始

青森県知事・三村申吾氏

「がんばろう日本　がんばろう東北」という強い思いのもとで青森デスティネーションキャンペーン（DC）を23日から当初の予定通りスタートさせることにした。東北新幹線はまだ全線つながっていないが、できることから、まず第1歩を進めていきたい。

日本の元気、そして東北の元気を再生していくためにも、それぞれの地域で、皆さんができることから第1歩を踏み出していただき、光を灯してほしい。

心1つにがんばる

山形県知事・吉村美栄子氏

4月11日、都内で開かれた北海道東北知事会で「過度に萎縮せず、経済活動を積極的に展開することが被災地への支援になる」とのアピールを採択した。東北に来ていただくことこそが元気づけることになる。

桜前線が北上し、県の桜も咲き始めた。東北が心を1つにしてがんばる時期だ。避難している方々には桜の花を見ていただき元気を取り戻してもらいたい。東北の母として、皆さんと一緒になって日本を立て直したい。

金融対策などに全力

参院議員・片山さつき氏

震災による影響で悲鳴が上がっている業界の1つが観光や旅行だ。間接被害、自粛不況に悩んでいる。我々自民党は政府に対し、金融対策や再建のための設備投資について徹底した免税・減税措置などの対策をとるよう求めている。

震災によって観光や旅行業が人災打撃を受けることがないように、特に金融面においてはモラトリアムに近いやり方でやっていきたい。与野党なく結集してがんばるので、負けないでほしい。

復興へ 青森DC開始

青森県知事・三村申吾氏

「がんばろう日本　がんばろう東北」という強い思いのもとで青森デスティネーションキャンペーン（DC）を23日から当初の予定通りスタートさせることにした。東北新幹線はまだ全線つながっていないが、できることから、まず第1歩を進めていきたい。

日本の元気、そして東北の元気を再生していくためにも、それぞれの地域で、皆さんができることから第1歩を踏み出していただき、光を灯してほしい。

復興へ がんばろう宮城

宮城県副知事・若生正博氏

「復興へがんばろう宮城」をスローガンに、県民一丸となって難局を乗り切っていく。交通インフラも急ピッチで復旧が進み、松島では国宝・瑞巌寺が拝観を再開するなど、県内各地で観光復興の動きが始まっている。

青森DCを皮切りに、各地で祭りやイベントが開催される。正確な観光情報の提供やPRを行っていく。明るく元気を出してがんばる。過度の自粛をすることなく、積極的な活動をしてほしい。（知事メッセージ代読）

日本の笑顔は北から

秋田県副知事・中野節氏

本日、このような集いが開催され、東北地方の観光復興に向けたキックオフが図られたことに感謝したい。ぜひ正確な情報を発信いただき、観光の活性化につなげていただきたい。

集いに合わせて、本日から「日本の笑顔は北から」というスローガンのもと、まず県民が観光地に行くことから始め、観光の再生を図るとともに、明るく観光客を呼び込んで、東北の観光地全体の元気を取り戻せるような活動を精一杯行う。

県民一丸となり復興を

福島県観光交流局長・大河原薫氏

県は日本の原風景というか、小学校唱歌「故郷」で歌われているような美しい山、綺麗な川、田園の風景の中で、多くの子どもたちが遊んでいる素敵なところだ。しかし今、地震、津波、そして原発問題で危機的状況にある。

1日も早く、こうした風景を取り戻すために、県民一丸となって復興に努める。観光客に来ていただいて心から楽しんでもらえるよう全力で取り組んでいく。皆さんの協力をお願いしたい。

自立と共生の心で克服

岩手県商工労働観光部長・斎藤淳夫氏

我々は再び顔を上げ、歩き出さなければならない。4月11日、希望に向かって復興に取り組んでいくことを誓い「がんばろう岩手」を宣言、基本的方針を定めた。

観光は未知の国への来訪を通じ、夢や希望、安らぎ、癒しを与える。岩手、東北が再びその任を帯びて立ち上がることは我々の重大な責務の1つだ。幾多の自然災害に見舞われながらもくじけず乗り越えてきた。自立と共生の心で克服していく。（知事メッセージ代読）

秋保や作並温泉も再開

仙台市東京事務所長・斎藤重信氏

観光関連施設については青葉城址など一部で被害が出たものの、重大な損壊には至っていない。インフラの復旧も進んでいる。市の奥座敷である秋保や作並温泉では旅館・ホテルの営業再開の動きが加速している。

市としては今後、皆さんのご協力をいただきながら、東北各都市とも連携を図り、観光復興による地域経済の活性化と心の豊かさをもたらす施策に積極的に取り組んでいく。（市長メッセージ代読）

笑顔でお迎えを

ホテル松島大観荘・磯田悠子氏

東日本大震災以来、これから果たして生き残っていけるのかと深刻に悩んだ。各地で大きな被害が出る中、松島は奇跡的に残った。松島湾の島々に守られたと思う。遊覧船も再開されるという明るいニュースもある。

厚かましいお願いですが、ぜひ東北においでいただき、私どもを元気づけていただきたい。多くの人に起こしいただけることで元気になるし、地域も活性化される。私どもも笑顔でお迎えいたします。

復興に向け行動を

日本観光振興協会副会長・舩山龍二氏

600人を超える人が集まり、皆さんの被災地復興への熱い思いが伝わった。協会は日本観光協会と日本ツーリズム産業団体連合会が合体し、4月1日に発足したばかりだが、この集いが初めての大きなイベントとなった。

今日の思いを噛みしめ、復興に向けて行動を起こしていただきたい。集いを機に、震災の教訓として二度と津波被害が起こらないよう、「津波対策基本法案」の成立を強く求めたい。

東北に足を運んで

東北観光推進機構会長・高橋宏明氏

東北はいつもの通り春が来ている。桜の花も咲き始めた。東北新幹線が今月末に再び全線開通し、空港も仙台を最後にすべて供用開始された。平泉の世界遺産登録も6月には実現しそうだ。どうぞ、今こそ東北に来ていただきたい。

東北に足を運び、東北人と話をし、泊まって、おいしいものを食べて、お酒を飲んでほしい。それが東北の支援につながる。東北の観光のために自粛ムードを吹き飛ばしていただきたい。

ローカル線の利用を

東北鉄道協会副会長・大石直氏

東北には小さなローカル鉄道がある。その各社が連携し、首都圏から多くのお客さまに来ていただこうと「東北ローカル線ご乗車・ご支援感謝キャンペーン」を企画、今月29日からスタートすることとなった。やれることからがんばっていく。全力投球する。

新幹線でドンと来て、毛細血管であるローカル線にぜひ乗ってほしい。趣向を凝らして待っている。元気に安全運行している。「みんな乗ってけらんしょ」。

気持ち切らさず応援を

俳優・辰巳琢郎氏

テレビ番組「くいしん坊！万才」で東北各県すべてを回った。非常に思い入れがある。私にできることから始め、役目を果たしたい。皆さんももう一度東北の文化、そして食を見つめ直してほしい。

長いスパンでの支援が大事になる。効果があるのはなんと言っても観光だ。1回とは言わず何回も足を運んで欲しい。東北のおいしい米を食べることもまた大きな支援になる。気持ちを切らさず、応援していきたい。

世界に東北の海PR

スポーツ観光マイスター・篠宮龍三氏

フリーダイビングをしている。アスリートにとって大事なものの1つに道具がある。私が着ているウエットスーツは宮城県石巻市の工場で作っている。幸い、被害はなかった。

我々アスリートができることは一緒に戦う姿勢だ。9月に世界選手権があるが、このウエットスーツを着て出場し、世界一を目指す。同時に、世界のアスリートに日本の東北の海の素晴らしさを伝えたい。ともにがんばりましょう。

エンタの力で支援

ぴあ社長・矢内廣氏

日本の最大の観光資源はエンターテイメントだと思う。今後、被災地の方が生きていくためにこのエンターテイメントがかなり役立つだろう。

昨日、都内で大がかりなチャリティコンサートが開かれ、義援金として計3400万円も集まった。また、同時に「チームスマイルプロジェクト」を立ち上げた。これを機に被災者支援の輪を広げたい。復興の原動力の1つとして、エンターテイメントを提供していきたい。